

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

八洲電機

3153 東証 1 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2019 年 12 月 9 日 (月)

執筆：客員アナリスト

水野文也

FISCO Ltd. Analyst **Fumiya Mizuno**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

八洲電機 <3153> は、電機制御システムの設計から納入、設置工事、アフターサービスまでを一貫して手掛けているエンジニアリング会社。また、産業用システムの販売なども行っている。取扱分野は、鉄鋼・石油・エネルギー・化学・紙パルプ・鉄道のほか、電子部品など幅広く、日立製作所 <6501> 及び日立グループの国内最大の特約店として発展を遂げてきた。東京オリンピック・パラリンピック後も、2025 年大阪・関西万博や IR などビジネスチャンスがある一方、依然として首都圏の再開発事業も活発化しているなど、収益環境の見通しは明るい。また、製造業の景気が上向き設備投資が拡大すれば、更なる収益の伸びが期待できそうだ。

現在、仕入先のうち、日立製作所並びに日立グループ企業が 50% 強を占める。主な日立グループ企業としては、(株)日立産機システム、日立グローバルライフソリューションズ(株)(旧日立アプライアンス(株))、(株)日立ビルシステムなどがある。日立グループ最大の特約店としての機能を果たしつつ、顧客ニーズに対応することを基本とし、日立グループ以外の製品も取り扱う。事例としては、力を注いでいる LED 照明に関しては、様々なメーカーの製品が取扱可能で、品ぞろえを充実させている。

また、最近ではエンジニアリングを中心に事業を展開している。エンジニアリング力を強化することに力を注いでおり、また、自社で行う工事案件は採算性が高いため、同事業に経営資源を集中させることで、収益力がアップすることになりそうだ。その一環として、2019 年 9 月には 2016 年に分社化した、電子デバイス事業におけるソフト開発などのビジネス展開している八洲電子ソリューションズ(株)を 2020 年 4 月付で立花エレテック <8159> に譲渡する基本合意を締結した。

■ 業績動向

2020 年 3 月期第 2 四半期累計連結業績は、売上高が前年同期比 7.1% 増の 29,923 百万円、営業利益が 122 百万円(前年同期は 33 百万円の損失)、経常利益が 188 百万円(同 3.5 倍)、親会社株主に帰属する四半期純利益が同 50.8% 減の 88 百万円となった。

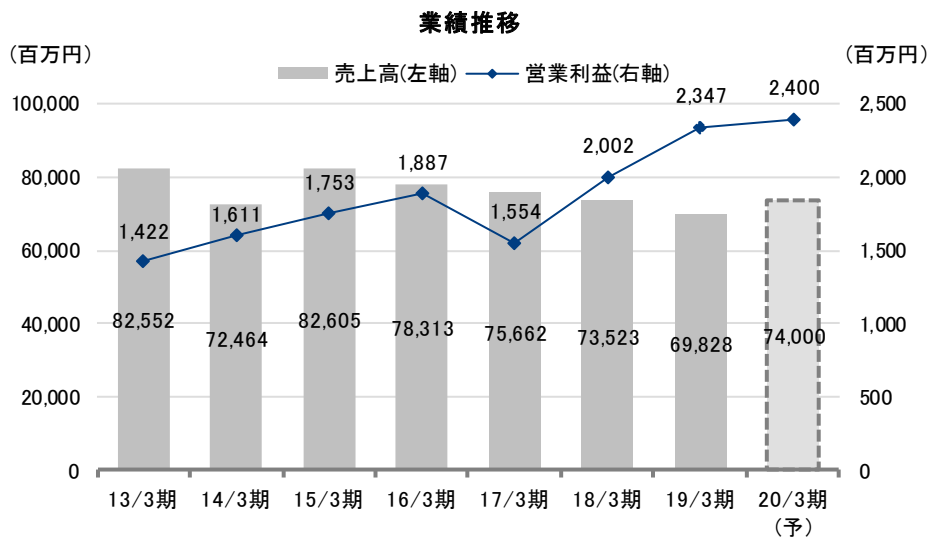
同社の事業は、プラント事業、産業・交通事業、電子デバイス・コンポーネント事業の 3 つのセグメントで構成されているが、このうちプラント事業は 2020 年 3 月期第 1 四半期では伸び悩んだものの、大型プラントなどが順調に進展、好調に推移した。

産業・交通事業では、産業機械関連のセットメーカーにおいて生産調整があったものの、再開発案件や首都圏を中心とした空調関連機器の販売や空調設備工事などが順調に進捗し、好調に推移している。さらに、交通分野も鉄道関連が好調を持続した。全体的に、採算性の高い工事案件が増えており、利益は黒字を確保している。

今後は、ポスト東京オリンピック・パラリンピックの受注動向を見極めなければならないものの、首都圏の再開発需要は依然として根強く、事業を取り巻く良好な環境に変化は見られない。関西圏が波及効果のメインとなりながらも 2025 年大阪・関西万博のほか、IR など期待の材料もある。

一方、プラント関係に関しても、鉄鋼などの大口ユーザーにおいて設備の老朽化が進んでいることから、今後も受注を安定的に確保できそうな状況だ。今後も10年くらいは更新需要が見込めると同社ではみている。

2020年3月期連結業績見通しは、売上高が前期比6.0%増の74,000百万円、営業利益が同2.2%増となる2,400百万円、経常利益が同3.0%増の2,600百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同7.4%減の1,700百万円との期初予想を据え置いている。配当については年20円を継続する見通しだ。



出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 当面の展望・課題

同社が力を注いでいるのが、ソリューション・エンジニアリング力の強化だ。単にモノを売る、コーディネートするという商社機能だけではなく、実際に工事を行い、技術力を提供している。それをより明確化するために、2018年4月にエンジニアリング力を最大限に活かし収益力強化を目的としたエンジニアリングビジネスユニットと、製品販売力の強化による売上拡大を目的としたインフラソリューションビジネスユニットの2つのビジネスユニットに再編した。

さらに、エンジニアリングを中心にビジネス展開することを明確にするため、事業セグメントについても2019年3月期から従来の産業システム事業と社会インフラ事業を統合し、産業・交通事業に変更した。これによって社内の経営管理体制が強化されることになる。また、空調・給排水衛生設備機器などの販売、設置工事、保守・サービスを八洲環境エンジニアリング(株)に承継させ、これらのビジネスについて特化することにより事業の効率化を図った。さらに、2019年4月より迅速な経営判断と最適製品やシステムの提供を実現するため、情報・通信機器などの販売・設置工事・保守・サービスなどを行う八洲情報システム(株)が営業を開始した。

実際、2019年3月期の決算では、ソリューション・エンジニアリング力を発揮した結果、前期の大型案件の反動もあって売上高は前期に比べマイナスになりながらも、2ケタ増益を確保するなど、エンジニアリング力を強化したことの効果が既に現われている。

2019年9月には2016年に分社化した、電子デバイス事業におけるソフト開発の拡大などのビジネス展開している八洲電子ソリューションズを2020年4月付で立花エレクトックに譲渡する基本合意を締結した。エンジニアリング事業に経営資源を集中させることを改めて示した。今後もエンジニアリングを中心に事業を展開していく。自社で行う工事案件は採算性が高いため、より収益力がアップすることになりそうだ。

他方、ソリューション・エンジニアリング力の強化で課題となるのが人材だ。人材確保が難しくなっているなか、大学との結び付きを強めるなどの施策を打っている。エンジニアリングの拡大に関してはこの面がポイントになりそうだ。

免責事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-11-9

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（情報配信部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp